

令和 6 年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(2 年)

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社

学習の ねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸問題を思いだし、その解決に向けて生涯にわたって考察、調べる事ができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、鑑賞時から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、指標、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて着想したり、考察、推察したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して過番される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像 【資質・能力】 との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・着想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な 評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの 記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互 評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変遷を大槪どの影響に基きつつ理解している。 ・国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政治運営や貴族文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	考古資料などについて、旧石器文化から弥生時代までの変遷について考察し、表現している。 ・中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、古墳の日本の根拠について考察し、表現している。	原始の日本文化について、その特色を明らかにしようとしている。 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 神代国家の形成 第4章 貴族政治の展開	・神代国家の成立とその展開について、中国・隋など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 ・神代国家の形成と政治制度と文化についてその特徴を理解している。	・神代国家に基づき土地制度や政治制度の影響を受けた天智文化について考察し、表現を示して表現している。 ・国家関係の文化や神代国家などに着目し、天智時代の政治や文化について考察し、表現している。	・天智朝の成立と天智時代の政治の動向に着目し、神代国家の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 ・天智朝の地方の政治や文化に与えた影響を明らかにしようとしている。

第5章 院政と武士の 権威	貴族社会や土地制度の衰微などをもとに、貴族制を調べ、古代から中世の国家・社会の衰微を考察している。 貴族制から様々な権威を継承し、武士の政治的権威について理解している。	武士の自衛の原動力や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、権威を示して表現している。 武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	中世社会の特色について時代を過渡する間を表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。
第6章 武家政治の成立 第7章 武家政治の成長	鎌倉時代から徳川幕府と室町幕府の時代やその時代の文化について理解している。 院政の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	氏家と公家の元々支那と関係し、開拓する文化の特性について考察し、権威を示して表現している。 戦国大名による富国強兵策に着目して、戦国政治の特色について鎌倉時代から考察し、表現している。	宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治などのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
第8章 近世の幕府 第9章 幕府体制の成立と展開	幕府体制下の支配体制や封建的結合秩序の形成に関する資料から適切に情報を取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 都市の発展と文化の興いなどに着目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を調べ取り、理解している。	徳川幕府の政治の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 開拓のない時代が創出された意識を述べ、人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	幕府体制が成立する過程における様々な展開について考察し、主体的に追究しようとしている。 近世前期における文芸・経済の発展や都市の発展などの事情について、その背景や展開を明らかにしようとしている。
第10章 幕府体制の 動向	幕府・諸藩の幕末や明治維新などの史料から情報を取り、三大改革や田圃の普及の背景について理解している。 政治経済と文化の関係などに着目して、19世紀前期の経済や文化について理解している。	幕府体制の維持と文化の展開の動向について、資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 徳川幕府の文化と影響などに着目して、幕府政治の動向と諸藩の動向について考察し、表現している。	幕府体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 近世前期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、つながりを見出すようとしている。
第11章 近世から近 代へ 第12章 近代国家の 成立	政治・経済の文化と思想への影響などに着目して幕府体制の崩壊と新政府の成立と中央集権化について理解している。 新政府をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・国会開設といった過程を理解している。	日本が直面していた課題を踏まえ、幕府崩壊期の日本の課題を考察し、表現している。 藩制の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	幕府の政治動向の過渡を考察し、近代の萌芽へのつながりを主体的に見出すようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
第13章 近代国家の 展開 第14章 近代の社会と 生活	日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について資料をもとに理解している。 国家の発展の経緯について適切に情報を取り、地域社会においておきた社会動向について理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国が日本の海外展開をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 都市の発展や生活の文化など地域社会の発展について多面的に考察し、表現している。	対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもたれたかについて考察し、追究しようとしている。 明治維新の文化に訪れる幕府と国政の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
第15章 恐慌と第二 次世界大戦	国家社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 戦争の経緯と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 戦争が拡大した理由について、日本における全体的な国家体制の進展について考察し、表現を添えて表現している。	満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的展開がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国家体制について全体的な課題を追究しようとしている。
第16章 占領下の日 本 第17章 高度経済成 長の時代 第18章 激動する世界 と日本	占領政策の転換による日本の政治や経済の文化について史料から読み取り、サンフランシスコ和約調印による日本の主権回復の経緯について理解している。 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の文化について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 日本が冷戦構造を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	占領体制の歴史的意義や保守政権の交代化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出すようとしている。 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出し主体的に追究しようとしている。
備考			

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理 歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日経705）山川出版社

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、探究することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	--

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい資質（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定時考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	- 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。 - 国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	- 考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 - 中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	- 原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 - 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	- 律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 - 律令体制の定容と摂関政治と国風文化についてその特徴を理解している。	- 律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。 - 国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	- 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 - 平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
後期	第5章 院政と武士の躍進	- 貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 - 諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	- 武士の台頭の背景や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。 - 武士の土地支配の持つ意味について多面的、多角的に考察し、表現している。	- 中世社会の特色について時代を遡る関心を表現し、追究しようとしている。 - 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。
	第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長	- 諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 - 庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	- 武家と公家の二元支配と両者に開く文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 - 戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。	- 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 - 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕閣 第9章 幕藩体制の成立と展開	- 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 - 都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	- 幕藩体制の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的、多面的に考察し、表現している。 - 戦乱のない時代が創出された意識を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	- 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。 - 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの権相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	世界史探究（世界史探究）	3	教科書『詳説 世界史』（世探701）山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を養わせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 1 学習の到達目標 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒力（実質・能力）との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を適切かつ効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察し、判断する力 - 構想したことを議論したり表現する力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 観察 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 文明の成立と古代文明の特徴	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。	・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農業・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的特質を理解している。	・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特色と周辺諸地域との関係、南アジアにおける宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第3章 西アジア世界と東地中海世界の展開	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
後期	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	・西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「イスラーム世界の拡大と繁栄」や「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第7章 ヨーロッパ世界の定着と展開	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	・宋の社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易の発展、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特色やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の発展、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の発展とアメリカ大陸の定着などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「中華世界の定着とモンゴル帝国」と「大航海時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第9章 大交易・大交流の時代	・宋の社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易の発展、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特色やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の発展、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の発展とアメリカ大陸の定着などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「中華世界の定着とモンゴル帝国」と「大航海時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	・西アジアや南アジアの諸帝国、唐と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特色、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特色や宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的発展の特色、主権国家の特色と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「ユーラシア諸帝国の繁栄」や「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・西アジアや南アジアの諸帝国、唐と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・西アジアや南アジアの諸帝国、唐と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・西アジアや南アジアの諸帝国、唐と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	世界史探究（世界史探究）	3	教科書『詳説 世界史』（世説701）山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要となる資質・能力を育成することを目指す。 Ⅰ 学習の到達目標 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい資力等（読解・批判）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 読解 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
前期	第1章 文明の成立と古代文明の発展	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的発展を説明している。	・古代文明に知れる諸事象の背景や原因、特色や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、資源・技術の発展などを多面的・多角的に考察し、説明している。	・「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界の形成 第3章 南アジア世界の形成	・中央ユーラシアと東アジア世界の形成の動向、仏教の成立と伝播、南アジアの諸国などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的発展を説明している。	・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、南アジアの政治や文化の特色、南アジアと東アジアとの関係、南アジアの社会の発展と周辺地域との関係、南アジアにおける南アジア文化の特色などを多面的・多角的に考察し、説明している。	・「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム世界の成立とヨーロッパ世界の形成	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的状況を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特質などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の発展の広がりを構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「イスラーム世界の拡大と発展」や「ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第8章 中央アジア世界の形成とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交通の時代	・中央社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易関係、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりとヨーロッパの進出を構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中央社会の特質やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の発展、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の発展とアメリカ大陸の発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「中央世界の形成とモンゴル帝国」と「大交通時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第10章 アジアの諸帝国の発展 第11章 近代ヨーロッパ世界の形成	・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の改革、大西洋貿易の発展、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や諸国家体制形成と地域経済での交易の拡大を構造的に理解している。	・アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の政治の発展、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特質や政治改革の意義、大西洋貿易諸地域の経済的発展の過程、主権国家の形成と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「ユーラシア諸帝国の発展」や「主権国家体制の形成と地域経済での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
通期	第12章 産業革命と近代西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米諸国家の形成	・産業革命と近代西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と植民地改革などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と植民地改革を構造的に理解している。	・大西洋貿易諸地域の動向や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や近代西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの発展、南北アメリカ大陸の産業や、労働力の移動を促す要因、イギリスの優位の増進、アジア諸国の発展の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の発展」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第14章 アジア諸地域の動向 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義諸国の競争、アジア諸国の改革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの広まりを構造的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の異同と相違点、アジア諸国のナショナリズムの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「アジア・アフリカ諸国の動向と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第16章 第一次世界大戦と世界の変革 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動向などを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の産業、国際関係の発展と対立を構造的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調体制の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格や、世界恐慌に対する諸国家の対応と異同と相違点、ファシズムの増進、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の展開と諸地域の発展」や「国際協調体制の動向と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
	第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・国際安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域経済の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北関係、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、世界の公正の取り組みと課題、国際協調社会の発展と課題を理解している。	・国際関係の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と国際協調社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、論資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際協調と国際競争との相違点と相違点、先進国による経済格差と経済の成長が見られた地域の現状、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の高度化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の終結と国際協調」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	2	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2024（とうほう） データブックオブザワールド 2024（二宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理探究の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	--

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に1回定期考査を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球規模への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や調査資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて議論したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを養うことができる。
育てたい資質 (資質・能力) との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な 評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 節 地形 1 地形の成因と地味表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特異的な小地形	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。	地形について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	2 節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生物 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を及ぼしているかについて理解している。	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を及ぼしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現に向けての課題を主体的に追究しようとしている。
	3 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。	日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	さまざまな地球環境問題の原因や解決についての取り組みを理解している。	地球と人間が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自らのできることを考えることができる。	持続可能な社会に向けての課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。
後期	1 節 農林水産業 1 農林の発達と分布 2 農林の地域区分 3 現代世界の農林の現状と課題 4 日本の農林の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	世界の農林水産業の現状について、自然環境とどのように関わっているかについて理解している。	農林水産業の分布についての背景を考察することができる。	持続可能な農林水産業のあり方について、課題を主体的に追究しようとしている。
	2 節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配の世界的な偏りや、飢餓や食糧の原因について理解している。	世界の食料問題の原因や背景について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	食糧の解決に向けて必要な取り組みを調べたり、発表したりすることができる。
	3 節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、生産と消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。	エネルギーや電力についての課題を考察することができる。	持続可能な社会に向けて、今後のエネルギーや電力のあり方について探究しようとしている。
	4 節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、社会的背景をもとに理解している。	資源・エネルギー問題について持続可能な社会の構築のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	5 節 工業 1 工業の発達と展開 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工場の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業はどのように発達し、現在どのような分野や地域が中心となり、どのように変化するとしているかについて理解している。	グローバルな視点に立ち、今後の工業の発展にはどのような取り組みが必要かを考察し、表現することができる。	持続可能な社会の構築に向けて、今後の工業のあり方について主体的に追究しようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地歴	地理総合	1	・「高等学校 地理総合―世界を学び、地域をつくる」（第一学習社） ・「新詳高専地図」（帝國書院） ・コネクト 地理総合（第一学習社） ・地理総合ノート（第一学習社）

学習の ねらい	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。
------------	---

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業です。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。定期的に課題を提出してもらいます。年にも定期考査を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて着想したりする力や、考察、精想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
育みたい生徒像 （資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざして追究する力。	広い視野に立ち、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な 評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	2章 地球的課題と国際協力 ①持続可能な開発目標(SDGs)②地球的課題の地理的な側面③貧困問題④人口問題⑤食料問題⑥持続可能な水の利用⑦健康・福祉問題⑧教育・ジェンダー問題⑨技術革新と持続可能な産業化⑩限りある資源⑪エネルギー問題⑫都市・居住問題⑬地球温暖化問題⑭陸地の環境問題⑮海洋の環境問題	・持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。	・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学び、消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。	・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合うことができる。
	3章 持続可能な地域づくりと私たち①地球規模で見る地形の姿と自然災害②人々の暮らしを取りまく自然環境③変動帯の自然と防災④温帯地域の自然と防災⑤私たちができる災害への備え⑥地域調査の方法	・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。	・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。	・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際にならなく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合うことができる。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	1	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2024（とうほう） データブックオブザワールド 2024（ニ宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理地舎の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	--

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。早に予定調考を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や鑑賞から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて精進したりする力や、考察、判断したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに精進したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを養うことができる。
育てたい生徒の （資質・能力） との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な 評価方法	定期考査 試験 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 部 地形 1 地形の成因と地表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と沿岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。	地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	2 部 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現に向けた課題を主体的に追究しようとしている。
後期	3 部 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。	日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 部 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	さまざまな地球環境問題の原因や解決についての取り組みを理解している。	地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自身のできることを考えることができる。	持続可能な社会に向けた課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民科	公共	2	教科書：『新版 公共』（数研出版）

学習のねらい	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、総資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態 アドバイス など	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的な課題を提出してもらいます。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、総資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
育みたい資質 (資質・能力) との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な 評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。	・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができる。	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を模範し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。	・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。	・選択・判断の手がかりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原理や憲法で保障されている権利を理解している。	・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。	・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。	・行政機構の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てている。	・模擬裁判や模擬投票の実施により裁判や選挙を身近に捉え積極的に参加する自覚を持つことができている。 ・主権者として参加しようという意欲を持つことができる。
後期	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。	・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。	・消費税や所得税などの税金の便害に関心が持てている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。
	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。	・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発源地上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。	・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題探究の観点 ・課題探究の手引き	・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解している。	・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。	・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民科	公共	2	教科書：『新版 公共』[数研出版]

学習のねらい	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を回ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--------	---

授業形態 アドバイス など	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
育みたい生徒の資質・能力との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学 期	学 習 内 容	学 習 の 到達 目 標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前 期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。	・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができる。	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を検証し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。	・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。	・選択・判断の手がかりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 公共的な空間における基本 原理 第1節 民主社会の基本原則 第2節 日本社会の基本原則	・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原則や憲法で保障されている権利を理解している。	・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともなう、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。	・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。	・行政機能の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を知見し、解決する見通しが持てている。	・模擬裁判や模擬投票の実施により裁判や選挙を身近に捉え積極的に参加する自覚を持つことができている。 ・主権者として参加しようという意欲を持つことができる。
後 期	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。	・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。	・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。
	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。	・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発展途上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。	・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題探究の観点 ・課題探究の手引き	・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解している。	・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。	・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。
備考				